

第4回 宇都宮市東部地域渋滞対策協議会

議事概要

1 日時

令和5(2023)年5月31日(水) 15:30~16:30

2 場所

栃木県庁 15階会議室

3 出席者

別紙「出席者名簿」のとおり

※議事に先立ち、協議会構成員の変更に伴う規約の変更について(宇都宮市東部地域渋滞対策協議会 規約(案))諮り、承認された。

4 議事

(1) 令和4年度の社会実験結果について(中間報告) (資料1)

(2) 令和5年度の社会実験実施計画について (資料2・資料3)

5 議事概要

- ・事務局から令和4年度の社会実験結果(中間報告)及び令和5年度の社会実験実施計画を説明し、質疑応答及び意見交換を行った。

6 主な質疑・意見

(1) 令和4年度の社会実験結果について(中間報告)

○矢野委員

- ・R4(2022)年とR5(2023)年の1月において宇都宮向田線の車線数の状況は変わっていたか。

(長田会長)

- ・車線運用についての前提条件は整理している。

(福森委員)

- ・継続的に交通状況データは蓄積されているので、当時のデータを確認し、車線数と交通の状況を確認していきたい。

○吉田委員

- ・やっていることは意義があり、非常にいいと思っている。現在行っている蓄積データを LRT 開業後にどのように結び付けていくかが重要である。
- ・究極の答えは交通行動の変容。自家用車と LRT を比べた際、定時制や移動に伴うコストにおいて LRT が優れている。
- ・LRT をどれだけの人が通勤の手段として利用するのか、というところが問題である。
- ・車利用者の意識をどのように変容させて、その効果をどのように評価できるか、というところが本社会実験の意義である。
- ・今回の実験データでは、「AI 画像分析の検知率の低さ」「LRT 開業前後において車の走行経路が変化することによる、渋滞箇所の変移状況の把握」「LRT 開業を見据えた、LRT の利用と交通の相関の調査方法の検討」という点で今後改善の余地があると感じる。

(長田会長)

- ・AI 画像分析は精度を高める努力をしているところであり、今年度の課題である。

(2) 令和5年度の社会実験実施計画について

○福森委員

- ・パーク&ライドは栃木県以外で実績があり、その際のアンケートの中では、パーク&ライドの駐車場を使わなかった理由で最も多かったものは「知らなかったから」であったが、「知っていたけど使わなかった」という回答も一定数存在した。
- ・アンケートを取る際は、「知っているけどなぜ使わなかったか」を把握できるようにアンケートを設計することが重要であると思う。

○矢野委員

- ・パーク&ライドはいつやるのか。

(長田会長)

- ・今年度の12月、1月である。

○矢野委員

- ・開業したばかりで、需要が落ち着いていない状況で実施することは、チャレンジングなことだと思う。
- ・LRT ができたばかりで、使い方の定着がされていない中で、どれくらいのニーズがあるかが明確でない。
- ・実証実験は今年度だけのものではなく、継続的に行い、比較することが必要なのではないかと。

- ・実証実験の実施に当たっては、やり方も含め、市だけでなく各関係各所と調整を図るべきと考える。

(事務局)

- ・実証実験は、宇都宮市や関係各所と調整を行い、実施していきたい。

○中尾委員

- ・パーク&ライドは利用者の立場に立つと駐車場が有料なのか無料なのか重要になってくると思う。今後そういった点での協議もお願いしたい。

(長田会長)

- ・重要な点と思われるので、ぜひ協議しながら進めていければと思う。

○吉田委員

- ・家族で商業施設に行くために、パーク&ライドを利用すると、余計に費用が生じることとなる。可能であるのならば、乗り換えにより生じた分の費用を商業施設側で負担してくれることが望ましい。
- ・LRT 負担分をどのように実感として軽減しているかを示すことで、利用促進に繋がれると考える。
- ・軽減しているときとしていないときの差を実験するというのも有益なのではないか。

(長田会長)

- ・周辺商業施設等と協働して進めていただければと思う。

○吉田委員

- ・LRT 路線から南北方向に移動するとき上手く利用できるような仕組みがあるといい。

(長田会長)

- ・タクシーの利用や、バスの再編も予定されている。バス等を利用して南北方向に移動ということも考えられる。

○平出委員

- ・トランジットセンターの駐車場が有料となると、清原工業団地内にある施設の駐車場が施設利用者以外による不適切な利用がされる懸念がある。
- ・本来利用できるはずの施設利用者が駐車場を利用できない状況となることが考えられ

るので、宇都宮市で管理している敷地の活用も視野に入れてほしい。

○渡辺委員

- ・LRTをどう利用してもらうかは、事前にどう周知していくかが大切である。
- ・これから利便性をPRし利用促進を図っていきたいと考えているため、情報提供をお願いしたい。

○谷委員

- ・事業を進めていくにあたり、産学官の連携が重要である。
- ・中でも民間の協力は不可欠であり、継続的に実施していけるよう協力をお願いしたい。

—以上—